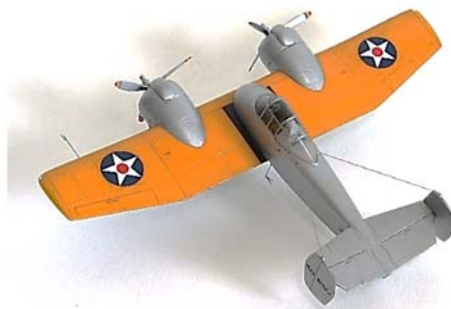


ワケ カタチには理由がある(41)

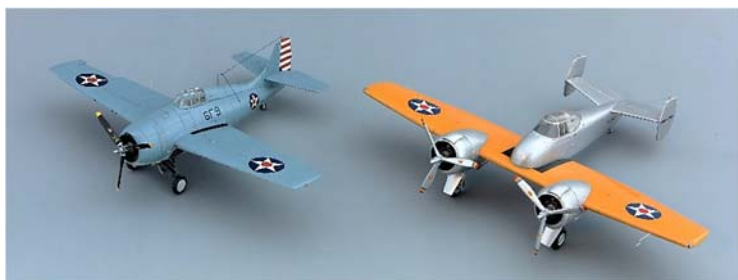
Shape follows
Function & Taste

～グラマン XF5F スカイロケット



【↓グラマン社の前作 F4F と】

本機はグラマンが作った米国海軍の試作戦闘機で、1940年に初飛行しています。主翼を挟み、その前縁から張り出すようにエンジンナセルが取り付けられ、また、主翼途中から後方に延びる胴体



を持った、とてもユニークな形状を有していました。丸味を帯びてコロっとしたエンジンナセルと機首はとても愛嬌があり、双尾翼と相まって、不思議にまとまりの良い全体形状を有しています。特に、前方斜めから見上げると、エンジンナセルの迫力は大きなものがあります。前作 F4F ワイルドキャットと同サイズで小型の双発機で、胴体先端を後退させることで左右エンジンナセルを接近させる意図があったものと思われます。しかし、古今東西、双発機戦闘機は成功する例は少なく、この機体も正式化されずに終わりました。グラマンはこの後、双発の F7F タイガーキャット戦闘機という大型艦上戦闘機を製作しましたので、その一里塚的な機体となったとも言えます。なお、本機はグラマンにしては珍しくネコ科の名称がついていませんが、「スカイロケット」のロケット(rocket)は今でいう噴進式エンジンではなく、「火矢」の意味だと思われます。

【模型について】

チェコの MPM 製 1/72 の簡易インジェクションキットで、互いにカウンター方向に回るプロペラもきちんと再現されています。しかし、20年以上前にリリースされた絶版キットであり、現在ではそれこそヤフオクなどで中古品を探すしかありません。より手軽に作れるインジェクションキットのリリースが待たれるところです。(中川裕幸 2021年8月, 2023年6月改定)